

■「最前線はまかせろー夏に鍛える1部6校のDLたち」⑤

伸び盛りの力見せるー東京農業大

25年ぶりの1部勝利を飾った昨季の手ごたえとともに、1部復帰2年目の躍進を目指す東京農業大ファイティンググラディッシュ。DLリーダーの伊藤智史（3年）は「オフェンスは1部でも通用する自信がついた。あとはディフェンスの強化。伸び盛りのDLが引っ張ってリーグ戦を戦いたい」と決意する。

今季は11人の新生を迎えて、総勢25人の選手で臨む。DL陣の先発は大嶽潤太郎（4年）、丹羽莞大（3年）、峯村直弥（3年）、伊藤の4人が務める。平均身長174.5センチ、平均体重89.8キロとDLとしてはやや小ぶりだが、全員が昨季の実戦経験は十分で、歴史的勝利の喜びも味わった。「3年生中心で伸び盛り」と伊藤リーダーが自慢する。1年生のバックアップメンバーも、全員が180センチを超える大型の5人が控える。「来年、再来年を見据えた戦いもしたい」と、伊藤リーダーの言葉に力がこもった。



春季オープン戦は帯広畜産大と対戦し、QB関叶翔（3年）からTEも兼ねる大嶽と、WR木村拓海（4年）へのTDパス2本で前半を12-7と折り返したが、攻守兼任の疲れが見えた後半に失点を重ね、12-35で逆転負けを喫した。「自分たちの課題の体力不足が出た。競り合った時のモチベーションも足りなかった」と伊藤リーダーは悔しがる。8月11日から始まった強化練

習でDL陣のテーマはまず体力アップ。DE大嶽も「最後までがっしりと当たりに行く」と秋の本番を見据えて言葉を強めた。

秋季リーグは初戦で昨季2位の釧路公立大、第2戦が連覇を狙う北海学園大と、いきなり強豪との連戦になるが、「自分たちの成長がチームの今後につながる」と伊藤リーダー。格好の相手に気持ちを高めながら「長いリーチでOLをコントロールしたい。先輩に学んだ技術を後輩に見せたい」と決意する。大嶽も「スピードで勝負して、毎試合QBサックを」と意気込み、丹羽は「パワーでインサイドのランを絶対止める」と力を込める。「チーム一の力持ち」の177センチ、95キロの峯村は「最初から最後までエネルギーを出す」と宣言した。（塚田博）

【写真】

伸び盛りのパワーで強敵打破に燃える左から大嶽、丹羽、峯村、伊藤